

『～私が見つけた～さがみはらの自然フォトコンテスト』入賞作品（金賞・銀賞・銅賞）
審査・寸評 日本写真協会会員 高橋ざいち

金 賞



撮影者

三菱重工エンジン&ターボチャージャ株式会社
吉田 順一さん

タイトル

「リヴァスポット早戸で自然を満喫」

撮影場所

リヴァスポット早戸

撮影者コメント

天気も良く、景色も良く、釣果も良く、自然を満喫するのにとても良い場所でした。

審査員寸評

一見して美しさが心に沁みる表現力の優れた作品に仕上がっています。清い水・澄んだ空・色付いた木々。降りそそぐ太陽の一つひとつにインパクトがあります。写真は現場で受け止めた感動を逸することなくどれだけ再現できるかが勝負です。その意味で撮影者は、感動を受け止めることのできる優れた感覚の持ち主であると思われます。

銀賞



撮影者

三菱電機株式会社 鎌倉製作所 相模事務所
渡部 一浩さん

タイトル

「日向ぼっこ」

撮影場所

構内ビオトープにて

撮影者コメント

秋の晴れ間にアカトンボが感慨深そうに日向ぼっこしている

審査員寸評

トンボが石の上で日向ぼっこ、川辺での一コマかと見ましたが、撮影者コメントによれば構内のビオトープ(生物群集が生存できる環境場所)とのこと、事業所にビオトープ、まずはこのことに驚きました。さて、トンボが日向でのんびりと羽根を休めている様子が伝わってきますが、露出(明るさ)がオーバーになりがちな石やトンボの羽根が適切に調整されていることが成功の一因でしょう。画面上部の背景に環境を示した構図も巧みな設定力です。

銀賞



撮影者

三菱重工業株式会社 相模原製作所
PN 織田さん

タイトル

「津久井湖畔」

撮影場所

津久井湖

撮影者コメント

自然の美しさを感じ写真撮影。

審査員寸評

上半分が実景で下半分が写り込みの景色、この組み合わせです。中央の山が合わさって一つのフォルムを形成していて、主題としての主張を創り出しています。

上下均等構図は難しいものですが、この場合は上手に収まっています。美しい環境を更に誇張する作画設定は表現力の深さを感じます。自然環境の大切さを感じさせてくれる作品です。

銅 賞



撮影者

株式会社サンコーシヤ 相模原テクノセンター

小山 元広さん

タイトル

「新旧交代」相模川諏訪森下中洲より新小倉橋を望む

撮影場所

相模川 諏訪森下中洲

撮影者コメント

発展する相模原

審査員寸評

自然環境の中に橋という文明を取り込み、調和を図って生活していく人の知恵が表現されています。今までにない新しい景観が生まれ、新しい営みが始まることを想像させてくれます。画面手前の稲の掛け干しが代々続いてきた農業文化と地域性を表しています。人工物と自然とを対峙させ時代の変革を伝えようとした作者の意図は見事に成功しています。

銅賞



撮影者

青山学院大学
御家 雄一さん

タイトル

「その先に、」

撮影場所

鹿沼公園

撮影者コメント

夜中に空を見上げたらキレイな星空に心が癒やされ、カメラを持って散歩にでかけました。月明かりに照らされる紅葉と緑葉が月明かりで照らされており、心を奪われました。葉の色の移り変わりが自然による時の流れを、公園の階段がこれから待ちわびる人生の一つ一つの階段のように感じました。その光景を一枚の写真に収めました。

審査員寸評

深い色味のグリーンが覆いかぶさるように配置された画面に目を引かれます。合わせて階段の影も印象的で、静寂の景観は昼間では想像できない異次元の世界を感じます。作者はこの場面を見過ごすことなくよくぞ収めてくれたものです。夜中にカメラをもって散歩とのこと、写真撮影のセオリーは「足しげく現場に通う」ことです。まさしく作者の姿勢はぴったりです。

銅 賞



撮影者

相模原市環境政策課

金井佑真さん

タイトル

「ぼくの巣箱」

撮影場所

自宅の庭（相模原市中央区田名）

撮影者コメント

子育てがんばれシジュウカラ。

審査員寸評

シジュウカラが餌をくわえている場面でしょうか、良いシャッターチャンスで捉えることができました。さらに葉の緑が明るく綺麗に表現されています。主題の鳥にピントを合わせ、背景をボカして引き立てる手法に技量の高さを感じます。撮影場所が自宅の庭とのこと、このような環境に生活できる素晴らしさがしっかり伝わってくる作品です。

『～私が見つけた～さがみはらの自然フォトコンテスト 相模原の環境をよくする会特別賞』

審査 相模原の環境をよくする会 副会長

三菱電機株式会社鎌倉製作所相模事務所

寸評 写真家 高橋 ぎ い ち

特別賞



撮影者

相模原市環境政策課

海野 宏明さん

タイトル

「道保川の流木」

撮影場所

道保川十二天神

撮影者コメント

川の中に流木を見つけました。道保川にも自然な環境が残されていたことにびっくりしました。

寸評

公園の中を流れているからでしょうか、川岸は護岸されておらず土の状態です。これだけでもいかに自然が保たれているかが分かりますが、さらに植物が元気に育っている様子が分かります。撮影者はそこに流木を発見したわけで、驚いた様子がコメントからも伝わってきます。自然を愛する気持ちを感じ取ることのできるワンカットを見事に収めてくれました。

特別賞審査員よりコメント

相模原のどのあたりでしょうか、林の中を流れる小川の中には水生生物もたくさんいそうですね。このような環境をいつまでも残したいですね。

特別賞



撮影者

東京電力パワーグリッド株式会社
千葉 正美さん

タイトル

「ずっと市民を見守ってきた大木」

撮影場所

栄公園

撮影者コメント

樹齡が何年か分かりませんが、何十年と市民を見守ってきた大木が立派でシャッターをきりました。

寸評

広場に立ち尽くす大きな木、暑い時には日陰となり、秋には紅葉を見せてくれたことでしょう。これまで大勢の地域の人が係わってきた大木は、この時期すっかり葉が落ちてしまい、広場もこの日は閑散としていますが、直ぐに子供同士や家族連れで楽しむ皆さんの姿を見ることができるでしょう。そんな気持ちにさせてくれる地域に密着した作品です。

特別賞審査員よりコメント

広場に大きな木が立っています、樹齡はどの程度でしょうか。多くの人が見守ってきたのでしょ、これからも残ってほしいですね。

特別賞



撮影者

さがみはら地球温暖化対策協議会
金子豊貴男さん

タイトル

「雨上がりの水たまり 市議会駐車場で」

撮影場所

相模原市議会駐車場

撮影者コメント

雨が降るとできる水たまり、そこで水浴びをするシジュウカラ 野鳥はたくましい

寸評

野鳥が駐車場の水たまりで水遊びをしています。人の生活環境に野鳥が飛び込んできてくれるとは・・・。こんなできごとに遭遇すると野鳥を身近に、そして大変かわいらしく感じるものです。雨が降ったらまたいらっしゃい。この場に居合わせた皆さんはそう感じたことでしょうか。何だかほんのりとした気分になりませんか。これが撮影者の伝えたかったことなのでしょう。

特別賞審査員よりコメント

小鳥が道路の水たまりで水浴びをしています。街中にもいろいろな鳥がやってきます。小鳥が休める場所が増えると良いですね。